

～障がいの有無にかかわらず、お互いに思いやり、  
支え合う社会をつくるために～



## 市職員（主任級職員）を対象に研修会を開催し、188人が参加しました

### 研修の概要

市職員のうち、主任級職員を対象に、「ともに生きる条例」について理解する職員研修を行いました。

平成28年10月24日（月）～26日（水）の3日間で5回開催し、188人の職員が参加しました。

市職員研修については、平成26年度以降職階ごとに実施しており、来年度で全ての職階の職員が受講する予定です。



### 研修メニュー

今回の研修は、次のメニューで行いました。

#### (1) ともに生きる条例について（障害福祉課説明）

ともに生きる条例の内容、合理的配慮の考え方、合理的配慮実践例の紹介・・・

#### (2) 障がいの当事者が置かれている状況

（講師団講師）

実体験に基づき、障がいのある人の生活の困難さや必要な配慮などについて説明

#### (3) 体験

車椅子の乗車して段差を越える体験、  
アイマスクをつけて移動する体験

### 受講者の反応

参加した職員からの声の一部をご紹介します。

- 実体験を通して気配りの難しさを学んだ。仕事で接した場合、自ら先に対応していけたらと思う。
- 障がいのある人に対して、今まではためらいがちに手助けを申し出ていたが、積極的に声をかけていこうと思った。
- 窓口対応では、代筆や筆談などその人その人に合わせて柔軟に対応できるよう心がけたいと思った。

### 講師による講義

今回は、次の7人の講師の方にお話をいただきました。

永松 温子さん（重度心身障がいのある人の親）

佐藤 紘造さん（精神障がいのある人の親）

大野 有香さん（精神障がい）

阿部留理子さん（内部障がい）

高橋 勇さん（視覚障がい）

瀬戸 弘美さん（視覚障がい）

西村 務さん（聴覚障がい）

それぞれ実体験を基に、障がいを抱えての生活状況や困難さ、配慮の必要性についてお話をいただきました。

阿部留理子さんは、直腸ガン、S字結腸ガンにかかり手術した結果オストメイト（人工肛門）になったそうです。オストメイトをはじめとする内部障がいは、外見では分からないため、生活する上での苦勞などはあまり一般に認識されていない面があるというお話をされました。



聴覚障がいの西村務さんは、耳が聞こえない人の生活上の苦勞などについてお話をしていただきました。



全く耳が聞こえないため相手の口の動きから言葉を読み取るが、市役所の窓口ではマスクをしている職員が多い。

対応する際にはマスクを外していただくとありがたいといったお話もありました。

発行：別府市福祉保健部障害福祉課

E-mail : haw-hw@city.beppu.oita.jp

TEL : 0977-21-1413、FAX : 0977-22-1780